

令和 8 年 5 月 29 日に開催した養正地域地区懇談会の議事要旨を 地域の皆さまにお知らせします

1 テーマ 令和 8 年度主要事業について

2 おもな意見

- ① (事前質問) 生ゴミ処理機や生ゴミ処理容器の購入費の補助について、多治見市の補助率(本体購入費用の 1/4)が県内の他市と比べて低い理由を教えてください。また、「補助は生ゴミ処理容器等の種類ごとに 1 回に限る」とありますが、それぞれの容器毎に 1 世帯何基までという規定があるので、「1 回に限る」というのは規制が厳しすぎるように思います。

回答(環境課)

県内の他市では、2/3 の補助をしているところもあれば、補助制度自体がないところもあります。多治見市は、限られた財源の中で、できるだけ多くの世帯で設置いただけるよう、補助率を設定しています。また、買い替えの際の補助への要望を以前から多くいただいていたこともあり、種類ごとに 1 回限りであった生ごみ処理機等の購入への補助を交付から 5 年経過後は 2 回目以降も受けられるように昨年度制度の見直しを行いました。今後も、継続して補助制度の見直しを行うとともに、ごみ減量施策の推進に努めてまいりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

- ② 養正幼稚園、昭和幼稚園、双葉保育園の 3 園を 1 園に統合する計画がありますが、1 園に統合するのではなく、少なくとも 2 園は残すべきではないでしょうか。統合の理由の一つに経費節減もあると思いますが、教育や子育てについては金銭的な効率だけで判断すべきではないと考えます。

回答(保育幼稚園課長)

昭和幼稚園と養正幼稚園については、1 クラス 10 人をきる非常に小規模な集団です。幼稚園ニーズのさらなる低下を見据えると、現在の 3 園の園児数は 1 つの園で十分に受入可能です。3 園の統合は、子どもたちのことを第一に考え、より大きな集団の中で社会性を育むことができる環境を整えるために進めるものです。

回答(市長)

3 園統合は、経費節減だけを目的として進めているものではありません。現場の状況を踏まえ、より良い保育・教育環境となるよう、子どもを第一に考えて取り組んでいます。

- ③ パブリック・コメントを実施しても、市民からの意見がほとんど寄せられていないように感じます。パブリック・コメント以外にも、市民の意見を把握する方法を検討してほしいです。

回答(企画部長)

パブリック・コメントは、テーマによって寄せられる意見数に差があり、意見がほとんどないものもあれば、市民の関心が高く多くの意見が寄せられるものもあります。実施に当たっては、広報紙やホームページで募集期間を周

知し、できるだけ多くの意見をいただけるよう努めています。また、「市民と市長の意見交換会」など、市民と市長が一つのテーマについて意見交換する機会も設けています。

- ④ 本庁舎跡地の活用について、地元住民を対象とした話し合いが十分に行われていないように感じます。移動が困難な高齢者のためにも、跡地には地域住民の利便性を高める地区事務所やドラッグストアなどの整備を検討してほしいです。

回答（総務部長）

地元の町内会やまちづくりに関わる方、関心のある方に参加いただき、跡地等利用検討市民委員会やワークショップを開催し、幅広く意見をいただいています。跡地整備は 4 年程度先を予定しており、今後も議論を進めます。本庁舎の移転に伴い、本庁事務所がなくなるため、地区事務所機能を整備する予定です。

- ⑤ 跡地等利用検討市民委員会は、委員の構成に偏りがあると感じます。幅広い住民の意見を聞きながら検討を進めてほしいです。

回答（市長）

跡地の利活用については、新庁舎整備後の 4 年程度先になります。今後も適切なプロセスを踏みながら、地域の皆さんの意見を伺い、検討を進めていきます。

- ⑥ バロー文化ホールで大規模なイベントが開催されると、駐車場が不足し、駐車できない状況が発生しています。駐車場を確保するための方策を検討してほしいです。

回答（三の倉センター所長）

イベントによっては、多くの来場者が集中し、施設周辺で交通渋滞や駐車場不足が発生していることは認識しています。現在は、周辺の民間駐車場に協力を依頼し、駐車場を借用するなど、可能な対応を行っています。引き続き民間駐車場の活用などにより、円滑な施設運営に努めていきます。

- ⑦ 生ごみ処理機等の購入費補助は、市の財政状況が厳しかった平成 22 年頃に補助率が引き下げられた経緯がありますが、ごみの減量や焼却費用の削減につながり、市の財政負担軽減にも寄与する重要なものだと考えます。補助制度の見直しを検討してほしいです。

回答（三の倉センター所長）

限られた財源の中で、できるだけ多くの方に補助制度を利用していただけるよう制度設計を行っていますので、ご理解をお願いします。

- ⑧ 南坂上公園は遊具が整備されて、多くの子どもが訪れるようになりました。公園周辺の道路の交通量が多いので事故防止のため、何らかの安全対策をしてください。

回答（建設水道部課長）

公園入口付近にポストコーンを設置し、車両への注意喚起を行うなどの対策を検討しています。今後も地元住民の皆さんと相談しながら、より有効な安全対策を検討していきます。

⑨ 市立小中学校体育館への空調整備は、省エネ性能等も考慮し、ランニングコストも含めた総合的な検討をしていただきたいです。

回答（企画部長）

初期投資とランニングコストを比較した国の資料や他自治体の状況等を踏まえ、このタイミングで市内全校を一斉に整備する方が望ましいと判断しました。省エネ性能やランニングコストに関するご指摘については重要な視点であると考えており、今後もしっかりと検証していきます。

⑩ 市役所本庁舎6階の食堂があった場所について、現在使用していないのであれば、地域の集会所などとして、活用を検討してはいかがでしょうか。

回答（総務部長）

市役所本庁舎6階は、市職員や来庁者の食事スペースとして利用しているほか、会議室や作業スペースとして活用しています。

⑪ プラティ多治見の新社長に市職員が就任したと聞いています。施設内には空き区画もあり、経営面の課題があり、市の負担が増えることにならないか心配です。

回答（経済部長）

現在の経営状況やJR多治見駅周辺の活性化に与える影響を踏まえ、部長級職員を含む2名の市職員を派遣しています。派遣職員については、前任の業務を兼務しながら対応しており、市役所における通常業務についても停滞することがないよう進めています。

⑫ 養正小学校前のカーブミラーについて、昨年11月頃にミラーの向きが変更されたことで、一方通行道路から出てくる車の死角が生じています。ミラーの位置や向きを調整することで死角を解消できないでしょうか。

回答（建設水道部課長）

現地を確認した上で対応します。

⑬ 所有者不明の空き地の除草について、市環境課から所有者へ連絡してもらっていますが、数年経過しても改善が見られません。所有者の意向を確認し、その内容を町内会などへ伝える仕組みを検討してほしいです。

回答（三の倉センター所長）

空き地の除草については、条例に基づき現地を確認した上で、土地所有者に対して適切な管理を行うよう指導しています。しかし、所有者の事情により、すぐに対応できない場合もあります。今回の件については、現在の状況を確認した上でご連絡します。

⑭ 市民が主役のまちづくりを実現する上で、これからの地域を担う30～40

代の人材育成が課題であると考えます。市と地域が一緒になって人材育成の方法を考えていただくよう要望します。

回答（秘書広報課長）

要望として承ります。

- ⑮ 地域で空き巣被害が増加しており、防犯カメラの設置について議論しています。しかし、防犯カメラ設置に対する助成制度が廃止されたことや、プライバシーへの配慮が必要であることから、設置が難しい状況です。市としてどのような防犯対策に取り組んでいるのか教えてください。

回答（企画部長）

防犯対策については、市だけで対応することは難しいため、多治見警察署と連携しながら取り組みを進めています。空き巣や特殊詐欺など、市内で発生した事案については警察から市へ情報提供があり、その情報を防災行政無線や市公式LINE等を通じて広く市民への注意喚起を行っています。

- ⑯ 喜多緑地に大型遊具を整備するとのことですが、地区懇談会の資料で示されたイメージ図の通りになるのでしょうか。約6,000万円の整備予算がある中で、約300万円分のみクラウドファンディングを実施する理由を教えてください。

回答（都市計画部長）

イメージ図の遊具が設置されます。整備予算のうち、大型遊具本体の整備に約5,000万円を見込んでおり、残りの予算で健康遊具や小さな子ども向けの複合遊具など、周辺施設の整備を予定しています。その財源の一部としてクラウドファンディングを活用するものです。

- ⑰ 国勢調査の最新結果を踏まえ、各種施策や計画について適宜見直しを行ってください。また、これからの地域を担う40～60代の意見を把握し、市長マニフェストにも反映してほしいです。

回答（市長）

皆さんの意見をしっかりと伺いながら、市長マニフェストの見直しを進めていきます。例えば、市之倉地域では、一時期は出生数が1桁台まで減少していましたが、近年は毎年2桁台の出生数となっています。地域の状況は変化しているため、現状を踏まえながら施策や計画の見直しを行っていきます。

- ⑱ 県内でも多治見市は犬の登録件数が多い地域ですが、災害時におけるペット対応マニュアルが整備されていません。作成を進めてほしいです。

回答（企画部長）

近年、ペット同行避難への関心が高まっていることから、既存の避難マニュアルへの記載だけではなく、専用マニュアルの作成を視野に入れながら検討していきます。